

Directory of Temples and Buildings with Mural Paintings in Thailand

Masahiko YAMANO and Takako IWASAWA

1 はじめに

タイやラオスの上座部仏教寺院の多くは堂の内部の漆喰壁に色彩豊かな壁画を有していることで知られる。COE プログラムが始動した 2002 年度の末から 5 ヶ年の間、筆者は、タイ王国各地の仏教寺院を訪れ、ubosot（布薩堂）や viharn（仏堂）の壁画の撮影と観察を行い、壁画の内容の分析や解説を試みてきた。その一部は本報告書シリーズの第 1 巻、第 2 巻に掲載の小論で報告したし、撮影した写真の一部を使って「タイ仏教寺院壁画データベース」をスタートさせた。元来、筆者の専門領域はこの分野、とくにタイ文化研究にはやや疎遠であった。ところが以前にチェンマイを旅した折、たまたま一軒の古書店で求めた数冊の本の中に、Sombat Plainoi, “Mural Paintings”なる小冊子（文部省国民文化調査委員会刊、1985）があって、この書が発端となって壁画への関心が芽生えた。同書にはタイの仏教寺院壁画に関する 2・3 の記述に続いて、壁画のある寺院リストが付されており、末尾に 30 葉の写真が掲載されていた。仏教寺院壁画ならこれまでにフィールドとしてきたスリランカのキャンディ地方で何度か目にしてきたが、タイのお寺の壁画は生き生きとした生活描写が見られて興味深そうである。

2002 年 12 月に大阪市立大学都市文化研究センターのバンコクサブセンターがチュロンコン大学芸術学部内に開設された。ここを拠点に文化をテーマとした研究調査を行うことになったとき、筆者の脳裏にすぐ浮かんだのは、寺院壁画を題材にしたいということであった。なぜならばバンコクの有名な Wat Suthat や Wat Saket を訪問した折、堂内の大きな壁画の美しさと内容の多様さにすっかり魅了されていたからである。そしてプロジェクトが開始されて最初の調査旅行の主目的地を著名といわれる壁画のある Nan に決め、Wat Phumin の素晴らしい壁画を目の当たりにすることになった。それ以来、プロジェクトが一応終了した 2007 年 3 月までに、タイコク内の 200 以上の仏教寺院を訪れ、壁画を見ようとした。しかし Plainoi のリストにある寺院のいくつかは、訪問時点では、すでに建物の荒廃や改築で、壁画を喪失していた。筆者がこれまでに壁画の現存を確認したのは 166 寺、Plainoi リストの約半数であった。

タイの寺院壁画のうち現存する最古のものは、15 世紀中ごろの制作とされる、アユタヤの Wat Ratchaburana の Prang（仏塔）内の絵、あるいは 1497 年の制作とされるラチャブリの Wat Mahathat のやはり Prang 内の絵である。建物に描かれたものとしてはアユタヤの Wat Buddhaisawan の高僧の居室の板壁の絵は 17 世紀末とされる。堂内の絵では、ペチャブリの Wat Koh Kaeo Suttharam（1734 年制作）と、Wat Yai Suwannaram、（17 世紀末から 18 世紀初頭）などが古い。このような壁画はタイ王国の国民国家建設の進展とともに、一般の民衆にパーリ語の経典をヴィジュアルな表象の形で

伝え、上座部仏教思想を核とした王国統治に役立てようとする目的を持って描かれたものと推察される。

ところでタイの文化は元来、異なった歴史をもつ大別して、4つの地域的基盤を有する。すなわち(1) アユタヤ、バンコクを中心とする、アユタヤ＝ラタナコーシン文化地域、(2) チェンマイを中心とするラーンナータイ文化地域、(3)、東北タイのイサーン文化地域、(4) ドヴァラヴァティのモン文化の後に、イスラム教文化が支配的となった南部のムスリム文化地域である。前3者の地域に限っても、寺院壁画の構図や内容(とりわけ絵の主題になっている説話)、それに描かれた場所など、かなり異なった伝統を有している。(1)が壁画をもっとも重要視していて、トラープーム宇宙観や釈迦の悟りを妨げようとするマラ軍団の襲来の構図の重視が特徴である。(2)は建築様式の特徴から壁画が少なく、壁画の構図もローカルな説話が中心となる。Ubosotに壁画の描かれた例はない。(3)では、堂の外部の壁にも色彩豊かな絵が描かれている点に特徴がある。

さて、以下に掲載する表は、タイの仏教寺院壁画データベース作成のための作業の一環として、1990年にタイの芸術局考古学の編集・発刊になる『タイの生活習俗画:タイの壁画美術第1巻』(タイ語)末尾に収録された壁画を持つ寺院のリストを英訳したものである。残念ながら訳出が遅くなり、筆者の壁画調査に十分役立てることはできなかった。訳出作業の手順を記すと、まず原文のタイ語を、バンコクサブセンター勤務のNarattaponeが英語に下訳し、それを大阪市立大学都市文化研究センター勤務の岩澤孝子が正確な英語に訳出し、山野が一部補訂した。タイ語の発音を正確にアルファベット表記することはいささか困難であったが、なるだけ従来の表記方法を参考にしつつ、原音に忠実になるよう努めたつもりである。本リストは、上述のSombat Plainoiのリスト(319ヶ所)より収録数が2倍以上多く、内容も充実している。ただしこのリストから壁画の歴史的、芸術的、図像学的価値を十分に推察することはできない。またラーンナータイの資料がやや不足気味であるように思われる。その点では、前者のリストも参考資料としての価値を失ってはいないであろう。タイの寺院壁画の保存状態は必ずしも良くない。専門の絵師を含む壁画を作成する職人集団も後継者が不足している。伝統的な古い壁画が消え去ろうとしている。本目録の英訳が、これから寺院壁画を調査しようとする者の参考になり、壁画文化の解明に役立つことを望んでいる(山野正彦)。

2 タイ仏教寺院壁画所在目録用語注釈

以下のタイ仏教寺院壁画美術目録 Thai Mural Painting Register は、1990年タイの芸術局考古学部が発行した「*Jitakam Thai Prapheni lem thi 1*(タイの生活習俗画:タイの壁画美術第1巻)」の巻末(110-169)に収録された資料を英訳したものである。本資料の作成にあたり、注釈を加えたい。

表 1 県別分類

	県名	壁画番号
1	Bangkok	1-207
2	Nonthaburi	208-227
3	Pathun Thani	228-234
4	Samut Prakan	235-242
5	PhraNakhon Si Ayutthaya	243-282
6	Saraburi	283-293
7	LopBuri	294-301
8	Ang Thong	302-311
9	Sing Buri	312-323
10	Chai Nat	324-330
11	Nakhon Pathom	331-338
12	Samut Songkhram	339-344
13	Samut Sakhon	345-350
14	Suphan Buri	351-381
15	Kanchanaburi	382-383
16	Rachaburi	384-416
17	Pechaburi	418-445
18	Prachuap Khiri Khan	446-448
19	Nakhon Sawan	449-451
20	Tak	452-459
21	Sukhothai	460-467
22	Uttaradit	464-474
23	Phichit	475-482
24	Phitsanulok	483-493
25	Phrae	494-497
26	Nan	498-501
27	Phayao	502
28	Lampang	503-518
29	Lamphun	519
30	Chiang Mai	520-543
31	Chachoengsao	544-553
32	Chon Buri	556-575
33	Rayong	576-579
34	Chanthaburi	580-591
35	Trat	592-603
36	Nakhon Nayok	604-605
37	Nakhon Ratchasima	606-624
38	Chaiyaphum	625-627
39	Buri Ram	628-634
40	Si Sa Ket	635-637
41	Roi- Et	638-650
42	Ubon Ratchathani	651-655
43	Khon Kaen	656-660
44	Kalasin	661-671
45	Nakhon Phanom	672-678
46	Mukdaharn	679
47	Sakon Nakhon	680-684
48	Maha Sarakham	685-695
49	Nong Khai	696-699
50	Loei	700-706
51	Chumphom	707
52	Nakhon Sithammarat	708-715
53	Surat Thani	716-719
54	Phang Nga	720
55	Phuket	721
56	Phatthalung	722-726

57	Songkhla	727-733
58	Pattani	734-748
59	Narathiwat	749

全 749 件におよぶタイ壁画美術の内訳を県ごとに表にした。表 1 を参照されたい。タイは 75 県を有するが、本著において、59 県での調査結果が記されている。原著には、二重記載や記入漏れがあり、壁画件数の実総数は 748 件である。二重記載は、285 (Saraburi), 396(Ratchaburi) と二件あったが、原著のママにおいた。また、413(Ratchaburi), 554, 555 (ともに該当県なし) は記入もれであり、番号なしで空欄を設けている。

目録では、寺院の名称など、原語をただアルファベット化しただけのものもある。英訳をしたもの、タイ文字を英字化しただけのものなど、混在しているが、主要な用語は次に、タイ文字の英語化、英語訳、そしてその概要の順で記した。特に概要では、前シルパコーン大学准教授・ソン・シマトラン (Sone Simatrang) の解説と表記によるところが多い (ソン・シマトラン「タイの寺院壁画：その地域的特長、壁画の物語とその変遷」、坂本比奈子訳 23-89、石澤良昭編『タイの寺院壁画と石造建築』、めこん、1989)。

○ 壁画の描かれる主な場所 place of painting

1. *Bot* (ボート) *ubosot* : 布薩堂。得度式など僧が儀礼や宗務を行うために使う建物 (ソン 1989:33)
2. *Vihan* (ウィハーン) *vihara* : 仏殿。寺の境内の中心である仏塔と対をなす建物。建物の一番奥に、本尊の大きな仏像が安置される。(ソン 1989:31-33)
3. *Monthop* (モントップ) *mondop* : 仏足跡などを納める、尖頂のある方形建築物
4. *Chedi* (チェディ) *pagoda/ stupa* : 「チェディ、ストゥーパ」仏舎利などを置く仏塔
5. *Kuti* (クティ) *monk residences* 僧坊
6. *Phrathinang* (プラティナン) *throne hall / ordination hall* : 「玉座の間」
7. *PhraRabiaeng* (プララビアン) *gallery* : 寺院の本堂などの周囲の少し高くなった「屋根付き回廊」
8. *Ho* (ホー) *building* : 建物
(ア) *Hotrai* (ホー・トライ) *holy scripture hall* : 寺院で三蔵を保管してある建物
(イ) *Hosuatmon* (ホー・スアットモン) *prayer room* : 祈祷所
(ウ) *Horakang* (ホー・ラカン) *belfry* : 鐘楼
9. *Sala* (サーラー) *resting house* : 休息、またはなんらかの業務のために建てられた広間形式の建築物。庁舎；休憩亭 (庭、寺院、村の中央、道路脇などに立てられた床と柱と屋根があって壁のない建物)
(ア) *Sala Kanprien* (サーラー・カンプリアン) *public hall* : 説教部屋
(イ) *Sala raï* (サーラー・ライ) *a row of resting house* : 本堂または布薩堂の周囲に並べ建てられた小さな休憩亭
10. *Meru(thit)* (メル) *crematorium* : 火葬場

11. *Sanjao* (サーンチャオ) spirit shrine : 精霊祠

○壁画のモチーフ Stories of Painting

1) 仏法、仏教説話および仏陀の遺物

1. *PhraAditphut(Chat)* (プラアディット(チャート)) former Lord Buddha (Jataka): 「過去仏」(ソン 1989:35-37)
2. *PhraPhutthaPrawat*(プラプッタ・プラワット) biography of Lord Buddha : 仏陀伝
3. *Thostsachat* (トッサチャート・チャードク) : Ten lives of the Buddha Jataka 「10本生話」 釈迦無二仏が前世に行った波羅蜜に関する物語 (ソン 1989:44-45)。
(ア) *PhraWessandonChat*: (プラヴェッサンドンチャート) Prince Vessantara Jataka : 「ヴェッサンダラ本生話」。10本生話の最後の一話。波羅蜜は布施 (ソン 1989:44-45)。
(イ) *MahosotChat* (マホーソットチャート) Prince Mahosot Jataka : 「マホーサッタ本生話」。10本生話の5番目。波羅蜜は般若 (ソン 1989:44-45)
(ウ) *SuwannasamChat* (スワナサマチャート) Prince Suwannasam Jataka 「スワナサーマ本生話」。10本生話の3番目。波羅蜜は慈悲 (ソン 1989:44-45)
(エ) *PhraNemiratChat* (プラネミラートチャート) Prince Nemirat Jataka 「ネミラート本生話」。10本生話の4番目。波羅蜜は決意 (ソン 1989:44-45)
4. *Traiphum*: three worlds: 「三界経」。仏教文学の一。生き物は、欲界、色界、無色界の三つの世界に輪廻転生を繰り返さなければならないことを説いている (ソン 1989:54-56)。
 - ① *Daowadung* (ダウドウン) Tavatimsa Heaven : 三界経の世界観の一。トウリ天。インドラ神がすむ。天国。(ソン 1989:54-59)。
 - ② *Thewada* (テーワダー) angel : 天使、天人天女。
 - ③ *Thephanom* (テーパノム) : 神々の合掌
 - ④ *Julamani* (チュラマニー) Chulamani pagoda : インドラ神のすむ宮殿をとりまく庭園に立てられた仏塔 (ソン 1989:59)。
6. *PhraMarai* (プラマーラーイ) Pra Marai story : マーラーイ大長老の物語
7. *Prisanatham* (プリサナータム) Dharma enigma : 仏法の謎 (ソン 1989:70-72)
8. *Asupkamthan* (アスプカムターン) sympathize with corpse : 不浄業処。死んだばかりの死体を念じることからはじめて、腐って異臭を放ち、白骨化するまで観想する 10項目の精神訓練法 (ソン 1989:72)

2) タイ式デザイン (ラーイ・タイ)

壁画の装飾モチーフとして、タイ式デザイン、「ラーイ・タイ」が多く描かれる。目録中には、これらタイ式デザインについては、原語のまま、イタリックで表示した。その主な内容は以下の通りである。

Lai Thai (ラーイ・タイ) Thai design (タイ式デザイン)

1. *Phumkhaobin* (プンカオビン) a kind of rice grain shaped design : 盛り上げて飾るお供え物の米の形をモチーフにしたデザイン
2. *Kanyaeng* (カンエン) a kind of Thai design
3. *Rachawat* (ラチャワット) a kind of Thai design
4. *Fuang* (フアン) flower design : 花モチーフのデザイン
5. *Kruaichoeng* (クルアイチューン) cone from design : 円錐形のデザイン
6. *Krabuanjin* (クラブアンチン) Chinese style of design : 中国風デザイン
7. *Kranok*(クラノック) gold : 金模様
8. *Kanok (mai)* (カノック) a kind of Thai design
9. *Krajang* (クラチャン) a kind of Thai design
10. *Prajamyat* (プラチャムヤン) flower design : 花モチーフのデザイン
11. *Chiaokang* (チアオカン) a kind of Thai design
12. *Rotnam* (ロットナム) golden line decorated on lacquer painting : 漆を塗った上に金で描いた模様
13. *Thephanom* (テーパノム) deities put hands together in prayer : 神々の合掌

3. その他

Nariphon (ナーリーポン) narephon tree 女性の実がなる木